

学校教育目標	〔自分大好き 仲間大好き 心かがやく 上菅田笹の丘小学校〕				
	○楽しく学び、のびのびと表現しよう。(知) ○みんなも自分も大切に、社会に貢献しよう。(徳) ○元気な心と健康な体を作ろう。(体) ○学区の特色を知り、地域の方々と共に活動しよう。(公) ○すてきな日本を学び、世界で活躍できる人になろう。(開)				
学校概要	創立 2 周年	学校長 世古 正樹	副校長 坂井敦・日野る美	2 学期制	一般学級: 27 個別支援学級: 8
	児童生徒数: 957 人		主な関係校: 上菅田中学校・新井中学校・新井小学校		

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
		上菅田中学校 新井中学校 新井小学校 上菅田笹の丘小学校
持続可能な社会の創造に貢献する力		自ら学ぶ子ども、仲間や地域とともに学ぶ子ども 「自ら学ぶ子ども」「ともに学ぶ子ども」の育成をめざし、必要な資質・能力について9年間を見通した形で共通理解を図る。

中期取組目標	○子ども一人ひとりを大切にしながら、地域と共に歩む学校にします。 ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現を大切にしながら学力を向上させます。 ・一人ひとりが自己有用感をもつとともに、他者を尊重しながら楽しく学校生活を送れるようにします。 ・心も体も健康であるための生活習慣が形成できるようにし、体力を高めるようにします。 ・地域での「人とのつながり」を意識し、豊かな体験を通して、地域の方々と共に活動する心を育てます。 ・日本の良さと特色を学び、世界の平和を考える子どもに育てます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①「上菅田笹の丘小学校スタンダード」に則って全職員が同じ価値観・同じ姿勢で児童指導を行っていく。②地域の一員としての自覚と地域に奉仕する心を育み、積極的に地域行事への参加と活動を促していく。③人権教育と連動して人思いやる心を育てていく。
担当 道徳部	
生きてはたらく知	①子どものめあてを大切にしながら授業展開を図るとともに、グループ学習を効果的に取り入れ、基礎・基本の定着を目指す。②重点研の研究テーマを「自己を深く見つめ、よりよく生きる力を育てるための道徳科のあり方」と設定し、日常生活の中から自分の課題を見つけられるようにし自己解決力の定着を目指す。
担当 研究部	
特別支援教育	①インクルーシブ教育という考え方を大切にしながら、個別のニーズに応じた教育を行い、合理的配慮が常にできる教育環境にしていく。②個別支援学級や配慮を必要とする児童の児童理解研修を行い、全職員で指導・支援に関わるようにしていく。
担当 特別支援部	
児童生徒指導	①児童支援専任を核とした指導部による児童の実態の分析を行いながら、個別の対応や保護者への面談を行い学校と保護者が同じ価値観で児童指導をするようにしていく。②人権教育と連動していじめの早期発見に努める。③職員会議において児童理解の話し合いを定例化し、児童の状況を共通理解する。
担当 児童指導部	
健やかな体	①各家庭と協力して基本的な生活習慣の定着をめざす。②一校一実践運動では子どもたちの願いを大切にしながら運動に取り組み、年間を通して体力の向上に励む。③栄養教諭と連携しながら全学級で食育に関する授業を行う。
担当 体育部	
地域連携・学校運営協議会	①学校運営協議会を通して、上菅田笹の丘小学校の教育目標、教育活動を保護者・地域の人々に周知信頼の輪を広げていく。②地域防災訓練では学校の役割を果たしていく。③地域学校協働本部の協力を得て、地域に開かれた学校経営を行う。
担当 教務部	
自分づくり教育(キャリア教育)	①「横浜の時間」を中心に、地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で一人一人の自己有用感を高める。②学年に応じて地域住民や企業が関わる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を考えられる場を設定する。
担当 生活・総合部	
新型コロナ対策	①国や県、横浜市の対応に合わせて、子どもも教職員も新型コロナに感染しないように最善の努力を行い、考えられる限りの学習保障への手立てを講じていくと共に学校行事を安全に推進していく。
担当 研究部・養護	
いじめへの対応	①児童の心の動きをとらえるため、カウンセリングスキルに関する研修を行う。②本年度重点研究「特別の教科道徳」において、児童自身が自己を見つめ、より多角的・多面的に事象を捉え、自らの考えを深める力を育むようにする。③教師や子どもの人権感覚を高め、地域・保護者と連携し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチームを5年次以下の教職員を中心に組織し、ミドルリーダーが講師となって月1回の活動を継続して行う。②グループウェアや情報機器を活用し、情報の共有化を図るとともに、事務の簡便化、効率化を図る。③教職員の健康が子供にとって価値ある教育活動の基本であるとし「持続可能な働き方」をキーワードに、さらに働き方改革を推進する。
担当 総務部	